

小笠原公の牡丹

この地に植えられた白牡丹の歴史は、松本城築城の約 500 年前にさかのぼる。。16 世紀のある武将が愛でた牡丹は地元の寺に預けられ、その後、城内に戻された。

16 世紀後半、松本地方は小笠原長時（1514-1583）の支配下にあった。彼は東の山にある林城に住んでいた。長時は、南から迫る甲斐国の雄、武田信玄（1521-1573）による侵攻の危機にさらされていた。長時は城を捨てて北上することを決意したが、大切にしている白牡丹が敵に踏み乱らされることを思うと、胸が痛んだ。

牡丹を残すために近くの兎川寺の住職託した。結局、長時は敗れ、その子孫が牡丹を取り戻すことはなかった。しかし、牡丹は檀家の久根下家たちによって永く維持された。

今日、松本城に牡丹があるのは、この久根下家のおかげである。1957 年、小笠原家第 16 代当主・小笠原忠統（1919-1996）に「殿様白牡丹」と呼ばれる小笠原牡丹が贈られた。忠統は、久根下家の説明に感動し、城内に牡丹を植え直させた。2006 年には、久根下家からさらに数株の牡丹が寄贈され、合計 6 株となった。

白い小笠原牡丹の他にも、ピンクや黄色の牡丹が天守近くに植えられている。花は 5 月に咲く。